

北海道大空高等学校の行動計画(グローカル・アグリハイスクール宣言 Part II)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和7年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローカル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	教科横断型の授業を展開し多面的な学習を行うことで、一人ひとりが目標をもって主体的対話的な学習が行える環境作りを目指す。	農業教科内での教科横断型の授業展開を実施することができた。ICTを活用し、授業目標や学習内容を見えやすくすることで、生徒一人ひとりが主体的に学習を行うことができた。	今後の農業においてグローバル化がより一層深まる。英語科との連携だけでなく、ICTを有効活用できるよう、情報科との連携をより深めていく必要がある。	3
	2 「世界と日本をつなぐグローカル教育」を行います。	海外短期留学支援など国際教育をとおして海外に関心を持ち、積極的に情報収集しようとする態度を育成するとともに、国際的な視点を持って地域社会に貢献する取り組みを目指す。	SNS等を活用し、海外の情報を学ぶことができた。短期留学に臨む生徒が多くいたため、農業を学ぶための留学を行う生徒を増やす。	教科横断的な学びを求められる中で、英語科や地歴公民科等との連携を図り、農業を学ぶ生徒の基礎学力向上を図る必要がある。	3
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	地域の特色ある生産物について主体的に学べる環境づくりを目指す。	地域生産物の栽培や地域産業の再認識に向けた活動を実施するとともに、農場環境を整え、通年をとおして、生産・栽培について学ぶ環境を整えた。	スマートアグリ探究系列の生徒を対象に、今後も地域農業の課題を解決するプロジェクト学習を意識した授業を開発する。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	地域企業との交流学習をとおして、地域農業についての知識を高めるとともに、販売会や広報活動をとおして地域の魅力を発信する。	地域との連携を強化し、主体的で対話的な深い学びを実現できた。販売会においては、本校だけではなく地域企業に参画してもらうことで、地域全体で地域の魅力発信を行うことができた。	新たな企業との連携を図ったものの、最終的には連携企業が毎年同じものとなっているので、さらに新たな企業との連携を模索する必要がある。	4
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	地域交流をとおして地域全体の環境美化に努め、環境保全への意識を高める。	町の観光資源であるシバザクラの苗植えボランティアや空港・駅での花壇造成など外部との交流をとおし、地域全体の美化に努めた。	シバザクラは干ばつや虫による食害により深刻な影響がでている。地域の観光資源として重要な地域資源なので、連携を強め、地域資源を守るために活動を一層推進していく必要がある。	4
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	異校種連携をはじめとした地域交流をとおして、農業の意義や役割を理解してもらう環境づくりを目指す。	幼小中との連携をとおし、農業の魅力を発信することができた。また、生徒自身も交流をとおし、地域資源の発見や地域における農業の役割を理解することができた。	活動内容のマンネリ化が見えてきた。更なる地域振興には活動内容の深化が必要である。	4
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	スマート農業に対応できる知識や技術を身に付けられる環境作りを目指す。	クロームブック等を活用してデータの整理を実施できる環境や、高性能PCの導入などスマート農業を学ぶ環境を整えることができた。	今年度導入した機材などを授業でどのように活用ができるか、授業改善が必要であり、教員が使用方法を熟知する必要がある。	3
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	自分たちの地域はみんなで守るという意識を醸成する。	地域との連携をとおし、町の美化活動を実践することで、町の一員としての自覚を高めることができた。	公衆衛生に加え、気象災害の視点も加えることで地域防災の意識を高める。	3